

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091100196		
法人名	営利法人 有限会社 築瀬の郷		
事業所名	グループホーム沙羅林築瀬の郷		
所在地	群馬県安中市築瀬194-6		
自己評価作成日	令和3年8月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとしての在り方を考え、個人の出来ること、出来ないことの把握に努め、出来ることの範囲を広げるために、又できないことへのフォロー方法を職員間で共有し、日々支援にあたっている。毎月の工作ではお一人お一人に職員がつき、時間はかかるがそこで利用者様と向き合う時間を持ち、コミュニケーションをはかりながら進めている。出来あがった作品はご本人様との写真に収め1ヶ月の体調やお伝えすべきことを記載しご家族に送付している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、理念にある「地域密着型として」を意識し、地域との関係づくりに取り組んでいる。回覧板の活用や、地域の一斉清掃への職員参加など、機会を見つけては地域と顔をつなぐようにしている。その積み重ねの結果、災害時の協力を得られ、区長や民生委員、近所の方の運営推進会議への参加実績がある。また、近所の方が野菜やハーブのドライフラワーなどを届けてくれる交流がある。日々の実践では、1対1で向き合える時間を意識的に作り、特に、利用者と個別に対応ができる工作づくりの時間を大切にしている。また、入浴の時間なども活用し、思いや意向を聞き取っている。介護計画作成の流れでは、ケアマネジャーと職員が話し合いや記録を用いて意見交換と情報共有を図り、管理者は、利用者一人ひとりの特記事項を毎月まとめ、それを職場会議で提示して、同じく意見交換や情報共有を行っており、その流れをもとに利用者の現状に沿った支援ができるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念は玄関先、事務所に掲示している。	理念にある地域密着の事業所であることを意識し、いろいろな場面で地域住民とのつながりや顔の見える関係を築くように努めている。一人ひとりの人権の尊重を大事にした支援ができるように、利用者一人ひとりの得意なこと、好きなことなどが最大限に生かせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回してもらっている。 廃品回収に参加している。 他イベントはコロナ感染予防のため中止となっている。	回覧板を活用することで、双方向の情報交換を行っている。地域一斉清掃の職員参加、認知症窓口の案内などを行い、近所の方から野菜を頂いたり、洗濯物が干しやすいようにかご置き場を作ってもらったりなど、地域との交流が多岐にわたって行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口になるべく研修を受け実行できるよう体制をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ感染予防のため、現在は市職員と事業所代表、管理者のみで行っているため外部の方の意見が聞けない状況である。	コロナ禍の会議開催のため、市担当者のみ出席となっている。利用者の状況や行事などの活動報告を行い、制度改正、コロナ対策などについて意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問に思った事は問い合わせしている。些細なことにも返答をくれる。	市の担当者とは、運営推進会議で顔を合わせ、意見交換を行っている。日頃、コロナ禍における面会方法、災害対策などについて相談をし助言を受け、連携をしながら運営を行うように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会設置における施設内研修を継続している。	研修などを通して、身体拘束についての理解を深め、それをもとに、日頃のケアの課題を職員間で話し合っている。夜間に、転落の危険性のある方がおり、安全に見守りができるような方法を検討している。利用者が屋外に出たいときは、付き添いながら庭にでて、目先や気分が変えられるように、支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われている職員会議では何度も虐待についてを取り上げ知識向上、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の施設内勉強会に取り入れ、学ぶ機会は作ってきた。活用できる段階には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	通常であれば時間をかけ、御家族に十分な説明をし理解いただくことに最善を尽くしているが、コロナ過で県外のご家族等は難しいこともあった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状では御家族は毎月の支払時に来訪するのみとほぼなっている。その際にはその時間を活用し、意見を伺うよう努めている。	現在は、家族へ電話での連絡やガラス越しの面会時に、事業所からの通信を渡す際に意見や要望などを聞くようにしている。利用者の季節の衣類交換について家族と相談し、家族の希望が反映できるように支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設代表には、職員誰もが希望を言いやすい体制にある。	代表者を交えての毎月の職員会議や、日常的に、職員はいつでも希望や要望を伝えられる状況がある。コロナ禍の感染予防のため利用者との接触なく事務所に出入りができたほうが良いという意見があり、代表者が自ら出入口を設置した。また、職員の研修参加や資格取得についても、積極的に支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が介護に専念できるよう、施設外に目を向けてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加、資格取得には意欲的になるような体制である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員と地域が、又同業者と繋がる場に参加することには賛同的である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階以前にはケアマネ、管理者は何度でも対応し不安が解消されるまで話を聞くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所への段階では御家族の心情は複雑と理解している。安心感を持ってもらうことに最善をつくしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の聞き取りで得た情報は細部にわたり全職員が共有できるよう行い、支援方法を統一するとともに、気づきを報告し合う体制をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で必要なことを一緒に行っている。得意分野を生かせるようお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月行っている職員会議では、お一人お一人の今を共有し、御家族にはどの職員でも対応でき、思いを伝えることができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染防止のため行うことができていない。	平常時は、家族や友人などが面会に訪れていたが、コロナ禍のため疎遠になりつつある。そのため、手紙での交流ができるように手助けをしたり、利用者との会話の中から出てくる人や場について傾聴し、会話を深めたりすることで、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナウィルス感染防止のため、間隔をあげ過ごしていただいている。職員が皆様に平等になるよう接している現状だが、座っていただく席を変えてみることも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となっても、必要であろう物を寄付して下さる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネが入所にあたり、事前の聞き取りを行いプランを立て、全職員が把握できるよう個人ファイルにしている。	入居時のアセスメントなどの基本情報をもとに、入浴、工作づくり、ゆっくりとお茶を飲みながらの時間などに日常的な機会を、職員と利用者が1対1で過ごせるようにし、会話をするようにしている。その中で本人が話してくれることを、職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネが事前聞き取りでまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活での気づきは連絡ノートを利用し、お一人お一人で記載するようにしている。その日にあったことをその日の職員で話し合い、翌日の職員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが御家族、ご本人から聞き取りし、ケアプランをたて支援を行い、毎月の職員会議で変化や支援方法の意見を出し合い、ケアマネは介護計画に反映するよう行っている。	ケアマネージャーは、家族の意向や、職員の支援の状況、意見、また、申し送りノートなどの内容を反映させ、介護計画を作成している。職員は介護計画を確認しながら支援を行い記録し、管理者はその立場から一人ひとりの利用者について特記事項にまとめ、それらをもとにケアマネージャーがモニタリング、介護計画の見直しへとつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにはその日に見られた行動や発言を記載している。その他にも職員間の連絡ノートには詳しく記載し変化には注意出来るような体制である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の判断で柔軟な対応ができる体制である。日ごとにリーダーを決め判断する職員を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染防止で活用できることが限られてくる。現在は難しい課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族、ご本人が希望している医療機関を変えことなく支援を行っている。市外の医療機関は緊急時以外御家族の協力をお願いしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医、協力医となっており、基本、往診により受診している。希望する他のかかりつけ医の受診は、家族にお願いしている。看護職がいることで、健康管理や受診時の主治医との連携などがスムーズにでき、適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と介護職員との情報は共有できるよう努めている。看護職員が出勤日でなくても電話連絡は常に取れる状態である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まると、医療機関に情報を渡し、コロナ過で面会出来ずとも、病院相談員の方に状態を伺えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約で重度化・週末期の指針の説明を行い、同意いただいている。	指針をもとに、状態変化のときは、主治医・家族と相談し、意向の再確認をしている。看護師に専門的な処置や判断を任せ、職員は精神面の支援を大切に利用者に向き合えた。また、感染予防のため面会時間を遅めにして他利用者との接触を控え、家族に面会をしてもらった。看取りについての職員研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての入所者様が起こり得る事態を想定し、対応を看護師に説明してもらうよう職員会議の場で行っている。緊急時のマニュアルは作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実地は行っている。災害時のマニュアルも作成している。水害時の近隣ハザードマップは近隣住民の方々の講習に参加させていただき、作成できた。現在は交流できない状態である。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、年2回実施し、1回は消防署立会いの下、夜間想定で、行っている。水害対策は、誘導などのマニュアルを作成し、地域へ協力を呼び掛けている。水、食糧などの備蓄を行っている。停電時のために携帯電話の通信アプリを利用して、職員間で連絡がとれるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の性格や生活史を理解し、言葉のかけ方に配慮している。	呼称は、名字にさん付けを基本とし、その人に合った声かけをしている。利用者の個人的なことは他利用者の前で口外しない、入浴や排泄時は一人一人対応するなど、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が言い出せない方への配慮は特に注意し職員側から気づけるよう心がけている。ほんの小さな事柄でも決めていただくことができるような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間の縛りはもうけず、レクリエーションも好みのものを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、髭そりは毎日行い、服装はボタンや首、胸回りがきちんとされているかの確認、どの色が好みかを聞いて上下のバランスを考え、服の提案をし、決定していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まっている食事形態でもその日、その時で希望や状態に合わせて形態を変える。感染予防の観点から現在入所者様に味噌汁やおやつを作っていたことを中止している。	業者が提供する献立、食材を基本に、季節行事や利用者の好み、事業所の家庭菜園や近所の方からいただいた野菜などの食材も取り入れるなどして、調理師が調理している。コロナ禍で一時中断しているが、平常時は、みそ汁やおやつ作りなどを利用者と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まったメニューのほかに体調に合わせてられるよう代替えの食材の確保をしている。水分に関しては数種類のドリンクを用意し、不足にならないよう飲んでいただけるものを提供している。摂取量の記入を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはお一人ずつの対応をして、ご自分で行っていただき、出来ないことは支援している。入れ歯使用の方には夜間はお預かりし洗浄を毎晩行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンについての情報共有は職員間で力を入れている。失敗がないようお一人お一人の時間でトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表に記録することで、職員で共有しながら、一人ひとりの排泄のパターンを把握するように努めている。おむつに排泄する不快感を考え、立位がとれれば、トイレでの排泄ができるよう支援している。また、利用者がモジモジするなどの動作をしたときは見逃さず、声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜が多めに取れるメニューを利用し、水分量を考え、排便周期の確認を行い注意をしている。排便状態が良くない場合は主治医に相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は1日おきの入浴予定をしているが、排泄、皮膚状態で入浴した方がいいとの判断があれば時間は問わず行っている。	入浴は、1日おきの午前中が基本だが、利用者の希望やそのときの体調により臨機応変に対応している。各自の好みなど個別に温度設定している。本人がくつろげ、リラックスして会話ができるように、風呂場や脱衣所では終始、職員と二人きりの場になるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はなく、寝付けない時は夜勤職員と一緒にすごしている。日中でも休みたい希望には添っている。就寝時は好みの室内の温度設定を行い、巡視時には温度の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、処方されている軟膏の管理は看護職員が管理し、介護職員が理解できる方法がとれている。介護職員は順次基礎的な内服薬の研修に参加している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染防止により外出が出来なく、施設内で過ごすことがほとんどの時間を閉めているが、洗濯物を干しに庭に出たり、喫煙の制限も行っていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染防止対策により外出が出来ていない。	コロナ禍であり、外出行事などは一時中断しているため、事業所内の庭を散歩したり、果樹や野菜を収穫したりして、気分転換を図っている。また、家族が介助し通院する場合は、飲食を伴わないようお願いして、感染予防のための安全面に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠方の御家族の場合は希望があれば少ない金額に限り保管管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもおつなぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、換気には気をつけている。施設内に異臭がないように常に気を配り、玄関には季節の花を飾ることが多い。	木材の落ち着いた茶色を取り入れ、明るすぎない照明にし、家庭的な雰囲気が作れるようにしている。施設特有のにおいが出ないように、近所の方にいただいたハーブを飾っている。また事業所内にはすすきなど季節の花を飾ったり、ホールの天井から利用者が作った作品をつるしたりして、季節がわかるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの座る場所はこだわりがある方以外は場所の移動をしていただき、気の合う方を限定せず、皆様がどなたでもうちとけていただける様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していて、ご本人様が大切にしているものがあれば、という質問は契約時に必ずしている。毎月の工作や色紙を自室に飾っている。	居室の壁には、利用者の持ち物や事業所で工作した作品などを飾るために、壁掛けを備え付けている。また、居室には、本人の馴染みの家具や小物類などがあり、居心地よく過ごせるようにしている。利用者の部屋の入り口には、職員と一緒に作った名前入りの表札をかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日に清掃時、危険な壊れた部分がないか、入所者様の歩行の妨げとなるものがないかの確認を行っている。		